四万十町 事前復興まちづくり

ワークショップニュース

志和地区　第1回　令和8年10月18日(日)開催

10月18日(日)、志和小学校体育館において「志和地区事前復興まちづくり計画策定　第1回ワークショップ」を開催しました。グループワークに先立って、過去の大規模災害からの復興事例を紹介し、「復興まちづくり」のイメージを共有しました。

第1回では、グループに分かれて地区の「これまで」や「現在」のこと、「取組に対する率直な意見」などについて意見を交換しました。



? 事前復興まちづくり計画とは？

これまで四万十町では、「命を守る」対策として避難路や避難場所の整備、「助かった命をつなぐ」対策として避難所運営の準備などに、住民の皆さんと一緒に取り組んできました。

「事前復興まちづくり計画」は、南海トラフ地震による被災後、一日でも早く復興に向けた取組を始めるために、**復興後のまちの姿を事前に検討しておくもの**です。これまでの取組とつなげ、地域に住み続けられる「安全安心」と「持続可能性」を高めることを目的としています。

南海トラフ地震の発生

これまでの取組

「命を守る」
- 強い揺れに対する備え
- 津波からの避難　など





助かった**「命をつなぐ」**
- 避難所の開設と運営
- 外部からの支援の受入　など





「生活を立ち上げる」
- **復興まちづくりについて事前に考え、備えておく**
  - **仮設から恒久的な住まいの確保**
  - **教育や福祉、暮らしの再建**
  - **なりわいの再生 など**

次回ワークショップのご案内　令和9年2月7日(日)13:00～　志和小学校体育館

ワークショップテーマ：復興まちづくりの課題

- 現在も困っていること・不安なこと
- 将来の住まいとなりわいについて
- 将来に残したいもの

住まいの確保・暮らしの再建について

- 高台住宅地を造成する場合は、川より北側のエリアが候補地として適している。
- 被災後も地域でなりわいなどの復興に携わり、生活とコミュニティをつないでいくべきである。
- 仮設住宅は浸水リスクのない高台エリアに建設・配置すべきである。
- 集落の山麓エリアは土砂災害などのリスクがあり、新しく住宅を建設することは難しいのではないか。
- 土砂災害を防ぐため、山沿いの法面対策を実施する必要がある。
- 住民の高齢化が進む中で、個人の資金のみで住宅を自力再建することは経済的に極めて困難である。
- 現在の急速な人口減少や高齢化のデータに鑑みると、現地での復興よりも安全な高台への一括移転を進めるべきである。
- 現在の集落は住民同士のつながりが良く住みやすいため、可能であれば現位置のまま生活を継続することが望ましい。

漁業について

- 昭和南海地震の伝承として、小舟を北側の岩場に避難させ、津波は川を遡上したが家屋被害は軽微であった。この地形特性を対策に活かすべきである。
- 漁業や農業といった地元の主要産業と生産基盤を守らなければ、地域から産業と住民が失われてしまう。
- 住民の生業である漁業と農業の生産拠点は、被災後も確実に地域に残していく必要がある。

農業について

- 志和地区に住み続けながら、今後も農業を継続することが望ましい。
- 津波による塩害や地震による田畑の断層・地変が発生した場合、被災後に農業を再開するのが困難になる懸念がある。
- 高台へ移転しても農地をすぐに整えることはできないため、住居は現在の農地から近い高台へ整備することが望ましい。
- 被災後の早期営農再開に向けて、基盤整備や栽培用ハウスの建設・復旧に対する公的支援が必要である。

防潮堤の整備について

- 世帯数を考慮すると防潮堤の整備は現実的ではないため、高台への移転を推進すべきである。
- 台風や高波のたびに海岸沿いの道路が削り取られて通行不能にならないか、懸念される。

地区の歴史や文化について

- 10月28日の「花取り踊り」のように開催日が固定された伝統行事があり、地域の貴重な文化となっている。
- 薬師寺(薬師堂)には700年以上の歴史と伝統があり、地域文化の象徴として将来へ継承・保存すべきである。

道路整備について

- かつて矢井賀方面へ抜けるトンネルの建設計画が存在した。整備を再検討してほしい。
- 今すぐ取り組める事前防災として、既存の道路の改修や補修を優先して進めるべきである。
- 復興や地域活性化の基本は道路整備であり、道が良くなればイベント等で交流人口を呼び込めるようになる。
- 老朽住宅の密集地や増え続ける空き家対策、狭小道路の拡幅工事が地域の大きな防災課題となっている。
- 孤立化を防ぐため、志和地区から地区外へ抜けられる安全な道路の確保を最優先課題として取り組むべきである。
- 今すぐ取り組める事前防災として、既存の道路の改修や補修を優先して進めるべきである。

命を守る・命をつなぐ対策について

- 水道施設や橋を新しく作り直す必要がある。
- 海岸沿いの浜地区は高齢化率が高く自力避難への懸念があるため、地域全員で助け合って避難する態勢が必要である。
- 自力避難が難しい高齢者や要支援者は、窪川地区などの安全な避難場所へ優先的に避難させる態勢を整えるべきである。
- 地域の担い手が復旧作業時に滞在・利用できる高台拠点スペースを確保しておくべきである。

話し合いの進め方・計画への意見

- 災害が起きる前の事前集団移転も選択肢の一つであるが、そのためには地域住民全員の事前合合意が不可欠である。
- 復興の主役は住民であり、人が安全に集い生活できる拠点や住まいがなければ地域の復興は成し遂げられない。

※掲載スペースの関係により、すべての意見を載せてはおりません。ご了承ください。

お問い合わせ先　四万十町役場 危機管理課（担当：正岡）
〒786-8501　四万十町琴平町16番17号
0880-22-3280　FAX 0880-22-3123